

肺癌患者の QOL に影響をおよぼす因子の検討

かわ	さき	ゆう	じ	こ	しょうぶ	とも	あき	わた	なべ	えつ	こ
河	崎	雄	司 ¹⁾	小勝負	知	明 ²⁾	渡	部	悦	子 ¹⁾	
おか	ざき	りょう	た	とう	げ	ひろ	かず	とく	やす	ひろ	かず
岡	崎	亮	太 ¹⁾	唐	下	泰	一 ¹⁾	徳	安	宏	和 ¹⁾
まえ	た		りょう	いそ	わ	のり	たか	うえ	だ	やす	ひと
前	田		亮 ³⁾	磯	和	理	貴 ³⁾	上	田	康	仁 ⁴⁾
なか	たに		しげる								
中	谷		稜 ²⁾								

キーワード：肺癌，QOL

要 旨

化学療法が予定された A 期以上の非小細胞肺癌患者23名の QOL を Functional Assessment of Cancer Therapy-General (FACT-G) の日本語版を用いて評価し、QOL に影響を及ぼす因子について QOL の向上を目指した観点から検討した。PS が悪いと身体症状や精神的状態に関係した QOL が悪化している傾向を認めた。PS の悪い患者では、身体面のほかに精神面でのケアが必要と思われた。女性患者では、男性患者に比較して活動状況に関係した QOL の悪化を認めた。女性患者では、生活の張りや楽しみといった面での QOL が悪化しているものと思われた。

また、入院化学療法前後の QOL の変化について 9 名で検討した。その結果、精神的状態の QOL の悪化の他に、社会的・家族との関係の QOL の悪化を 5 名で認めた。入院治療では友人や家族から疎遠となる可能性があり、外来化学療法への移行や患者を取り巻く社会や家族による精神的サポートの必要性が示唆されているように思われた。

はじめに

治療が困難であり進行した癌患者に対する医療行為（介入）の目的の 1 つは、生命の質（qual-

ity of life: QOL) を向上することにある。治療開始にあたり、QOL を評価することは、その評価に基づいた治療やケアが可能となり¹⁾、ひいては QOL の向上にも結びつく。ここでは、肺癌患者での治療前の QOL、それに影響する因子、さらに化学療法前後の QOL 変化について調べ、患者の QOL の向上を目指した観点から化学療法やケアについて若干の考察を加える。

Yuji KAWASAKI et al.

- 1) 松江赤十字病院呼吸器科
 - 2) 独立行政法人国立病院機構米子医療センター内科
 - 3) 松江赤十字病院呼吸器外科
 - 4) 鳥取大学医学部分子制御内科(元松江赤十字病院呼吸器科)
- 連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200番地